

ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

根本守仁・岡本晴夫・藤岡康弘・米田一紀・大植伸之・大澤宏史

1. 目的

県では、近年著しく激減したホンモロコ資源の回復を目的に、平成 18 年度から大量種苗生産放流が実施されている。

水産試験場では、天然卵からの親魚養成(F0)と(公財)滋賀県水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚(F1)にするために必要な卵の供給を実施した。

2. 方法

1) 親魚養成

①天然卵の採集

平成 30 年 4 月 17 日から 6 月 18 日に、大津市小野地先および長浜市延勝寺地先の琵琶湖、西の湖、伊庭内湖、西の湖に流入する山本川で、柳の根や藻等に付着したホンモロコ卵を採集した。

②飼育管理

採集した卵から得られたふ化仔魚を、30L 水槽に、1 水槽あたり約 2,000 尾となるように計数して収容した。収容後は主にツボウムシを給餌した。30L 水槽での飼育期間は約 2 週間とした。

その後は、40 m²の屋外池に放養して飼育した。放養から 2 週間はワムシおよびアルテミア、それ以降は配合飼料を給餌した。

2) 経年魚からの採卵

平成 27~29 年度に生産した親魚から採卵を行った。採卵は、4 月 20 日~6 月 11 日に、4 回実施した。方法は、自然産卵による採卵とし、水面に浮かべた人工基体に産卵したものを回収した。

3. 結果

1) 親魚養成

①天然卵の採集

卵の採集は、期間中に 8 回行った。合計 24,500 尾のふ化仔魚を得た。なお最も多かったのは 5 月 22 日に山本川で採卵したものであり、全体の 41.2%を占めた。

②養成

育成期間中は、特にトラブル等がなく、順調に育成することができた。

平成 30 年 11 月時点での年齢別の親魚量を表 1 に示した。0~2 歳魚をすべて合計すると、26,712 尾、198.1kg となった。

表 1 年齢別のホンモロコ親魚生産結果

年齢	池数(面)	尾数(尾)	重量(kg)
0歳	3	14,613	74.7
1歳	3	9,566	88.3
2歳	2	2,532	35.1
合計	8	26,712	198.1

2) 経年魚からの採卵

時期別の採卵結果およびこの使用目的を表 2 に示した。例年、4 月中旬から採卵を行っているが、本年度は 1 回目の採卵が不調であった。結果として、例年より約 2 週間遅れた 2 回目の採卵で多くの卵を得ることができた。

本年度は、6,545,000 粒を採卵し、(公財)滋賀県水産振興協会へ 4,805,000 粒を提供し、当場で 1,740,000 粒を使用した。

表 2 時期別のホンモロコ採卵結果および使用目的

	1回目 (4/20~23)	2回目 (4/29~5/5)	3回目 (5/27,28)	4回目 (6/9~11)	計
採卵数(千粒)	930	3,630	1,210	775	6,545
協会へ提供	640	2,700	690	775	4,805
当場で使用	290	930	520		1,740